

公開例会の成功を祝して

県央経営者会会長

大泉 政治

■日時 平成18年4月16日 会場 厚木ロイヤルパークホテル

かねてより、多くの一般市民の参加を目標に準備を進めてまいりました公開例会が、四月十六日午後二時より厚木ロイヤルパークホテルにて開催されました。

当日は、会員の数を大きく上回る一般市民が参加し大盛会となりました。これは、このテーマが市民の皆様にとってわれ

われが考えていたよりも、はるかにニーズの高いテーマであったことの表れであると思います。そして、このような前例のないイベントを成功させることができたのは、会員の皆様のご努力とご協力の賜物であると心より感謝いたしております。

このシンポジウムには、松沢成文神奈川県知事から励ましのメッセージをいただき県政よりの理解も寄せられ、山口巖雄厚木市長をはじめ長塚幾子伊勢原市長、小田急電鉄株式会社黒田聡氏、相模鉄道株式会社小川昌夫氏のご参加をいただいた。パネルディスカッションは、熱気の帯びた充実したものとなりました。この充実したパネルディスカッションの実現に大きく貢献していただいたのは、コーディネ

ーターを務めていただいたテレビ朝日の渡辺宜嗣アナウンサーでした。この地域になじみが薄いにもかかわらず短時間のあいだに事情をよくご理解され、ときにはこちらが驚くような鋭い質問をされ会場を大いに沸かせていただきました。

開催まで準備期間が短く、会場の確保やパネラーの方々の日程調整など多くの困難を乗り越え良い経験になったと思います。今後はこの経験を良い勉強材料として、会の運営に活かしていきたいと考えております。今後とも諸課題の実現に向けて、皆様のご紹介をいただいで会員数の増強を図り、本会の発展と輝かしい県央地区の未来に向けて邁進してまいります。

しよう。



挨拶する黄金井実行委員長



松沢知事の手紙を代読する斉藤様



県中央の交通ネットワークを考える

県中央経営者会公開例会 パネルディスカッション



平成十八年四月十六日(日)午後二時三十分より、厚木ロイヤルパークホテルにて県中央経営者会主催による第二回目の公開例会(パネルディスカッション)が開催されました。当初四百人の参加者を想定していましたが、一般の参加者が予想以上に多く、急きよ最後列に椅子を並べるほどでした。

まず、総合同司会の飯田隆三氏による開会宣言があり、続いて黄金井一太実行委員長挨拶がありました。来賓挨拶は、神奈川県知事松沢弘文氏に代わり、県環境共生都市整備担当部長の斉藤猛夫様よりいただきました。

パネルディスカッションははじまると最初にコーディネーターのテレビ朝日アナウンサー渡辺宣嗣氏が紹介され、次々と六名のパネリストが登場しました。オープニングでは、県中央経営者会の活動の紹介、本日のテーマの意義・目的についてわかりやすいビデオが流され、参加者の理解を深めました。

題名は「県中央の交通ネットワークを考える」。厚木市・伊勢原市・秦野市の首長、小田急、相鉄の担当者、県中央経営者会会員の六名で議論が交わされ、会場から質問が飛び交うほど盛り上がりを見せました。

〔パネルディスカッション要旨〕

●連携について

行政の立場から、まち(市)は互いに競争する立場にあるが、これからは連携して地域全体の活性化を図っていかなくてはならない。鉄道会社として、小田急電鉄・相模鉄道とも県中央地区の発展が企業の発展につながるというところは十分理解しているし、出来ることから協力していきたい。

●反対の意見について、その対策は？

現在、海老名市の反対があるが、これは始発駅でなくなるとか乗降客が海老名で下りなくなるとか言う意見であり、これは県中央地域全体の発展や乗り入れによつてすべての電車が海老名を素通りするのではなく、一部の電車が相互乗り入れするということを説明していくこと。そしてこの相互乗り入れは、海老名市・JRの二者を巻き込んだ地域全体の活動にしていくべきだ。

●実行性の難しさについて

相互乗り入れを実現するには代々木上原駅のような立体交差の工事が必要で、それには数百億円のコストが必要と思われる。また、現在海老名駅の改



司会の飯田理事



450名の参加者で満員になった会場



小田急・相鉄の担当者



渡辺アナウンサーと厚木・伊勢原市長

パネリストのコメント



厚木市長
山口 巖雄 様

「県央地区の首長のサミットを開いて、乗り入れに向けた努力をしていきたい」



伊勢原市長
長塚 幾子 様

「週末特急やイベント特急など観光客の誘致には非常にいいと思うので、是非実現していただきたい」



秦野市議会議員
福森 登 様

「2010年には秦野市に神奈川県高等職業訓練校ができ、生徒数六百人、教師の数百二十人という大きな施設が出来る予定なので、市民の利便性とあわせて是非相互乗り入れを実現していただきたい」



小田急電鉄(株) 交通企画部課長
黒田 聡 様

「現在のダイヤの問題からは、平面交差は不可能と考えている。また立体交差するには数百億円の費用がかかるとされるし、地域住民の意向など多くの課題がある。これらの課題が解決すれば、技術的には線路幅が同じなので相互乗り入れの可能性はある」



相模鉄道(株)
鉄道カンパニー事業統括部課長
小川 昌夫 様

「土曜日曜とか観光目的のために一日数本走らせるとか、フル装備にするか一部のみ乗り入れにするかで可能性は出てくるのではないかと」



県央経営者会会長
大泉 政治 会長

「うちの会社は県央六市に全部事業所がある。この地元に住んでいて仕事をしていて、もし相互乗り入れが実現するという夢があれば、もっと地元でがんばろうという気持ちになるのは当然でしょう」



テレビ朝日アナウンサー
渡辺 宜嗣 様

「各市の連携というキーワードが重要な要素としてある。行政は行政としてこの問題をさらに深めていくために、今日の議論をただの議論に終わらせないように、次の機会を作って進めていけることを期待します」



小田急線・相模鉄道の相互乗り入れの可能性

修工事が計画されていてこれに九十二億円の費用を投入しようとしているが、これが無駄になる可能性がある。しかし、全体の完全なる相互乗り入れではなく、休日のみ何本か走らすとか平日でも昼間の走る本数が少ない時間に数本通すなど、考えようによっては可能な話ではないか。また、技術的には線路幅が同じであるので、例えば横浜発箱根行きロマンスカーが走る可能性はあるのではないか。

●週末特急ないしイベント特急のアイデアについて

週末だけとかお祭りのある期間だけロマンスカーを走らせるという考えは、県央地区、特に伊勢原市・秦野市ともに非常に強い要望を持っている。これは相互乗り入れ以前の問題で、お祭りの時期に新宿からのイベント特急を両駅に停車させるということに期待したい。

●今後の取り組みについて

相互乗り入れには大きなハードルがあるが、例えば厚木駅(本厚木駅ではない)まで相鉄線の引込み線があるがこれを利用できないのか。また、海老名市や

JRとの連携も必要であるので、県央地区の首長によるサミットを開いて解決に向けた努力をしていきたい。など行政側からも熱心な声が上がった。これに対して、鉄道各社はこの問題についてそれぞれまったくだめと決め付けずにこれから実現に向けて勉強していきたい、との前向きな姿勢をいただいた。

●参加者の発言

参加者からは以下のような発言があった。
① イベント特急は伊勢原にも是非止めてほしい。

② JR東日本は東武鉄道と相互乗り入れを実現し、これを大勢の客が利用している。またJRの湘南ライナーなどは乗換えがなく非常に便利だ。もし相互乗り入れが実現すれば観光客が大勢県央に来ることは十分予想できる。

③ 箱根町は、横浜から箱根へとロマンスカーが乗り入れるのを悲願としているので、是非実現してほしい。

④ 県央にある大学は学生の確保が大変で、その意味でも是非相互乗り入れを実現してほしい。



県央経営者会
まちづくり コンサルタント
奥村 隆 史氏

奥村コンサルタントの講評

まずは公開例会が、実行委員の皆さまのご努力によって立派なシンポジウムとなり、大勢の参加者を得て成功裏に終了したことをお慶び申し上げます。厚木、伊勢原、秦野の市長、市議会議員、市民が、共に会って関係鉄道と社と対話をする緒を開くことが出来た意義は大きく、今後このような対話を含む諸活動を継続して段と機運を高めていく事が大切だと思います。会場からの意見表明も良かったと思います。通勤通学者は鉄道にとって確実な安定収入先であり、大学からの声は大きな力だと思えます。箱根町の議員さんからの横浜特急の話も県央を越えた仲間の出現で、今後の運動に大きな示唆があったと考えます。神奈川県 backboneの視点から今後神奈川県央の施策に組み入れる運動も必要だと考えます。

公開例会アンケート集計 (回収アンケート総数: 193通)

		(実数)	(%)	(実数)	(%)
1. 何で知ったか					
①県中央経営者会メンバー		51	26.4	④知人の紹介	32 16.6
②新聞		85	44.0	⑤その他	13 6.8
③チラシ・ポスター		12	6.2		
				計	193 100.0
2. 時間について					
①長すぎる		7	3.8		
②ちょうどよい		155	84.2		
③短すぎる		22	12.0		
		計	184	100.0	
3. 交通ネットワークの拡大が必要か					
①必要		177	92.2		
②必要ない		4	2.0		
③どちらともいえない		11	5.8		
		計	192	100.0	
4. 今度、県央地区が発展しそうに感じたか					
①感じた		136	72.0		
②あまり感じなかった		37	19.6		
③その他		16	8.4		
		計	189	100.0	
お住まい					
厚木		69	39.2	秦野	24 13.6
伊勢原		30	17.0	平塚	4 2.3
海老名		10	5.7	その他	36 20.5
座間		3	1.7	計	176 100.0
年齢					
十代		1	0.6	六十代	46 26.3
二十代		6	3.4	七十代	9 5.1
三十代		21	12.0	八十代	1 0.6
四十代		31	17.7		
五十代		60	34.3	計	175 100.0
性別					
男		158	86.3		
女		25	13.7		
		計	183	100.0	



会場からは多数の質問がありました

5. 今後、県央地区を活性化するにはどのような施策がポイントになるとお考えですか？

集計結果

●相互乗り入れに関して……20件

- 小田急・相鉄の相互乗り入れが必要と思われるので、今後具体的に進めていただきたい。
- 横浜駅発箱根行きロマンスカーの実現を。都市鉄道利便増進法の活用を検討してはどうか。

●交通ネットワークに関して……6件

- 地域内における総合交通ネットワークの早期実現。海老名市の積極的な参画。
- ネットワークが拡大すれば楽しみ。交通という面で利便性が高まれば今後の県央にとって大きいと思う。

●新幹線新駅に関して……6件

- 小田急・相鉄の相互乗り入れと同時に、JR相模線の倉見駅周辺に新幹線停車駅を作ることを同時に進めれば、もっと県央と相南が手を結び発展の余地があると思う。

●海老名市の参加に関して……9件

- 海老名市の参加は必要だと思います。
- 行政側の厚木市と海老名市の連携が不可欠。更なる市町村合併が必要。

●道路網の整備に関して……11件

- 電車交通ネットワークの拡大も必要であるが、同時に道路整備(特に一般道)も必要ではないかと思う。地域の特色ある自然を活かした活性化が一つのポイントではないかと思う。

●地域の活性化に関して……31件

- 市民の声をどんどん受け入れて活性化につなげてほしい。
- 活性化のために自然を破壊することなく進めること。教育に力を。

●行政の連携に関して……16件

- ディスカッションを聞き、交通網(鉄道・道路)の整備が発展につながる事が良くわかりました。地域の発展は行政、鉄道、市民がひとつになることが、実現に向かう近道かと思えます。自治体はぜひ連携をお願いしたい。
- 「交通ネットワーク」については行政がもっと積極的に取り組むテーマであり、行政が主導すべきである。都市間連携を密にするための鉄道相互乗り入れは、市民に理解を得られるよう努力すべきである。

●その他……7件

- 会の拡大および情報の公開。

懇親会

パネルディスカッション成功の 興奮がみなぎる懇親会会場

パネルディスカッションが再会を約して閉会されると、参加者が二階の暁紅の間へ移動。岡見健氏（小島組）の司会により、黄金井一太実行委員長の乾杯の発声があり、懇親会が盛大に開催されました。渡辺宜嗣アナウンサーもご参加いただき、一般の参加者も混じり、パネルディスカッションの成功と興奮で話がいつまでも尽きないようでした。あつという間に時間が過ぎ、高橋氏の中締めにより県中央経営者会最初の公開例会が無事閉幕しました。



多くのメンバーで賑わう懇親会場



中締をする高橋特別会員



小林特別会員



堀江特別会員



乾杯の発声をする
黄金井実行委員長



公開例会の成功を伝える
大会会長



新聞掲載記事



小田急 相鉄

「乗り入れ実現の第一歩に」

県央経営者会の公開例会に450人参加

厚木市や伊勢原市など県央6市の企業経営者が昨年6月に発足させた県央経営者会。その公開例会「県央の交通ネットワークを考えた」が、相模鉄道との相互乗り入れの可能性があることを示した。4月16日、厚木ロイヤルパークホテルで行われた。当日は定員を超える約450人が参加。関心の高さがかがわせた。



パネリストが活発に意見交換した

「朝日アナウンサー渡辺真嗣氏、大泉政治県央経営者会会長、山口巖雄厚木市長、長塚幾子伊勢原市長、福森登奈野市議と、小田急電鉄と相模鉄道の担当者がパネリストとして参加した。ディスカッションでは、山口厚木市長が「昔は相鉄線が厚木まで乗り入れていた。相模川以西発展のため乗り入れを実現してほしい」と発言。ほかのパネリストからも同様の発言が相次いだ。それに対して小田急担当者「実現には海老名駅を立体化する必要がある」と述べた。

▲タウンニュース 06.4.21



小田急・相鉄 相互乗り入れ可能性探る公開討論

小田急線と相鉄線の相互乗り入れの可能性を探る公開討論会（県央経営者会主催）が16日、厚木市内のホテルで開かれ、厚木、伊勢原の両市長のほか小田急、相鉄の担当課長らが参加した。意見交換が行われた。

小田急線と相鉄線は海老名駅が乗換駅となっているが、相互乗り入れはしていない。両市長は「市民や産業界からの要望が高い」「行政の広域連携の時代に交通ネットワークは必要だ」と互いに相互乗り入れを強く要望した。

望した。JRとの相互乗り入れを検討している相鉄側は、乗客の増加に向け、小田急との乗り入れについても「社会的責務として前向きに検討したい」と積極的だったが、小田急側は現在の過密ダイヤでは海老名駅の立体交差が必要になり、事業費は数百億円かかる。さらに海老名駅は92億円をかけて自由通路や駅舎を改良しているが、これが無駄になると慎重な態度を示した。また、「小田急線と相鉄線の線路幅が同じなので、多方面から要望があれば可能性はある」との見通しも付け加えた。

▲読売新聞 06.4.17朝刊



▼神奈川新聞 06.4.17

「相互乗り入れを」 県央地区の市長ら討論

海老名駅での相鉄線と小田急線との相互乗り入れ実現に向けたシンポジウムが16日、厚木市内のホテルで開かれた。

県央地区の企業経営者らでつくる県央経営者会（会長・大泉政治オィズミ社長）の主催。参加した約四百五十人を前に山口巖雄厚木市長や長塚幾子伊勢原市長、両鉄道会社の課長級担当者らがパネリストとして参加した。山口市長は「神奈川県は相模川を境に東高西低で、西側はなかなか栄えてこなかった。市民や産業界の要望も強い」と相互乗り入れの意義を強調。沿線の自治体首長に「検討する必要がある」と発言。一方、小田急側は「沿線の価値向上を重視し、横浜方面に通勤通学する市民も多く、観光面で運行する過密ダイヤの中で平面的な交差での乗り入れは難しく、立体交差は数百億円の投資が必要」として実現が容易でないことを強調した。（佐々木 航哉）



相鉄線と小田急線の相互乗り入れをテーマに開かれたシンポジウム
＝厚木ロイヤルパークホテル

2006年度総会のお知らせ

特別講演

佐藤ゆかり衆議院議員



謹啓、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、県中央経営者会が発足しこの6月で早一年が経過いたします。今年是一年目とあって試行錯誤の年となりましたが、会員の皆様のご協力をいただき、公開例会シンポジウムまで開催ことができました。今後も県中央地区の未来づくりや地域経済の発展に貢献し、また会員相互の親睦が深まるような会になればと思っております。

つきましては、下記日程にて総会を開催いたします。また特別講演として「佐藤ゆかり衆議院議員」をお招きし、日本経済や、県中央地区の展望などについてお話をいただく予定です。

ご多忙のこととは存じますが、多くの会員の皆様にご出席いただきまますようお願い申し上げます。

敬 具

佐藤ゆかりの信条

日本の経済社会を必ず良くします。
 かつての高失業率のイギリスが金融ビッグバンで再生したように、カナダが大幅な財政赤字の再建に成功したように、そしてかつて農業国のアイルランドがIT立国化に成功したように。
 時代を真摯にそして冷静に見極め、新たな時代に即した知恵と工夫を出し合って、日本の少子高齢化のチャレンジを乗り越え、一人ひとりが経済的に、精神的により豊かになれる、そのような日本の経済社会創りのための「経済政策維新」を進めます。

日 時	2006年6月12日(月)	午後五時より
場 所	厚木ロイヤルパークホテル	
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成十七年度事業報告 ・平成十七年度決算報告 ・平成十八年度事業計画審議 ・平成十八年度予算案審議 	
講 演	佐藤ゆかり衆議院議員	

「ロマンスカーが地下鉄千代田線に乗入れ決定!」

小田急ロマンスカーの地下鉄千代田線への乗入れがいよいよ2008年から実施されることが決定しました。

先般実施いたしました公開例会への参加協力のお礼と今後の連携、情報交換を目的として5月17日、大泉政治会長、飯田隆三理事、事務局二人の計四名で新宿の小田急本社を訪問。参加予定であった山木副社長は急用にて同席されませんでした。パネリストとして参加下さった黒田課長と下岡総務部長と面談。その会談中、小田急様より2008年からロマンスカーを地下鉄千代田線に乗入れることが報告されました。現在、地下鉄乗入れ用のロマンスカーが設計段階に入っているとのこと。大泉会長からは停車駅と

して「霞ヶ関駅」や「大手町駅」を組み入れることが要望された。このことは我が県中央地区のさらなる発展につながる朗報として期待ができます。会談は今後も当会、小田急様、また相鉄様、関係自治体との連携を深め「県中央地区の交通ネットワーク」を考える勉強会などを積極的に展開していくことで合意。当県中央経営者会が担う役務の大切さと今後の積極的な事業取り組みの必要性を感じさせられる会談でありました。

